

産地戦略

実施期間 令和8～12年度

実施主体 ものペグリーン技術協議会
都道府県 高知県
対象地域 香美市、南国市
対象品目 たまねぎ、にんじん（露地）



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
● 有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

高知県香美市および南国市においては、有機農業の取組が少なく、緑肥や有機質肥料を用いた資源循環型の栽培体系の確立や知見などが不十分である。そこで、資源循環型農業の取組として ①機能性緑肥の活用による病虫害の抑制 ②生肉処理廃棄物を含む堆肥の活用 ③土壌分析や太陽熱消毒（陽熱プラス）、有機質ポリマーの施用 を行うことにより、施肥量の最適化、除草作業やかん水作業回数の低減による省力化について検証し、学校給食で多用されるたまねぎとにんじんの連作有機栽培体系の確立や知見の集積を行い、資源循環型農業の普及や給食食材を安定的に供給できる産地を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	収穫	は種		すき込み	処理開始 処理終了	は種	は種		収穫				上段：にんじん 下段：たまねぎ
技術名			緑肥すき込み		太陽熱土壌消毒（慣行）								



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	収穫	は種		すき込み	処理開始 処理終了	は種	は種		収穫				上段：にんじん 下段：たまねぎ
技術名	土壌分析		機能性緑肥すき込み	鶏糞堆肥施用	太陽熱土壌消毒（陽熱プラス）								・太陽熱処理前の施肥時に有機質ポリマーの土壌混和 ・にんじんは種後に初殻被覆等の高温対策実施 ・生肉処理廃棄物入り鶏糞堆肥使用 ・土壌分析に基づいた施肥設計

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R7	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	3	3	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.8	1.6	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.8	1.6	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.8	1.6	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	・緑肥（ソルガム）のすき込み ・エンジンポンプによる定期的かん水 ・堆肥の不使用	▶ ・機能性（センチュウ抑制効果）緑肥の利用 ・有機質ポリマーの土壌混和 ・堆肥の使用	・かん水回数削減 ・秀品率、収量の向上 ・規格外品率の低減
環境 省力	・簡易な土壌分析 ・太陽熱土壌消毒（通常型）の実施	▶ ・土壌分析による土壌化学性・生物性の検定 ・太陽熱土壌消毒（陽熱プラス）の実施	・秀品率、収量の向上 ・除草作業時間の低減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	かん水回数（回/作）	10	▶ 5	
環境 省力	除草作業時間	10割	▶ 7割	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

露地野菜栽培農家を対象に、栽培マニュアルを活用しつつデータを活用した太陽熱土壌消毒の普及を図るとともに、機能性緑肥の活用や有機質資材（生肉処理廃棄物入り堆肥や保水剤等）の実証結果を紹介するなど、関係機関一体となって推進する。

関係者の役割

関係者名	生産者	中央東農業振興センター	高知県農業協同組合	
役割	グリーンな栽培体系の実践	・情報発信 ・マニュアルの見直し ・戦略のとりまとめ	・資材情報の提供 ・農業技術情報の提供	

事業を活用して導入した農業機械等の活用面積の目標

農業機械名	作業内容	活用面積（R12）（ha）	備考
地温調査用機器（露地ファーム）	土壌消毒時の地温測定	1.6	